

序

東洋大学の創立一〇〇周年記念事業の一環として『東洋大学百年史』の編纂が進められているが、このたび資料編Ⅰの上・下二冊がまず刊行される運びとなった。

一〇〇年史刊行の意義については、あらためて述べるまでもないであろう。本書は、『東洋大学百年史』通史編Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（部局史）、資料編Ⅰ・Ⅱの一部にあたる。

これは文字どおり本学の一〇〇年にわたる歩みの跡であり、また創立以来の記録を集大成した生のデータ集であって、一九八二年以来、編纂室がそれら資料の収集と整理とに全力を注いで来たところのものである。

年史を編纂するに当たって、資料がいかに重要であるかは論をまたないところで、本委員会が資料編の完成を第一の目標とした理由もここに存する。

このような意味において本書を眺めた場合、その内容の広範な点においても、また、精緻精細な点においても、現在望み得る最高のものであるといささか自負するとともに、編纂室各位の献身的なご努力に対し深甚なる敬意を表する次第である。

既に刊行された『図録東洋大学一〇〇年』ならびに記念映画『百年からの出発―明日をめざす東洋大学―』も、もちろんこの資料に基づいて作成されたものである。

時間の経過とともに細かい情報が失われ、あいまいになっていくのが人間の記憶である一方、それ自体に破損・散逸の危険があるのが個々の文書による記録である。このような点から、それぞれの時代に文書として残されていた記録を集大成した本書は、後世のためにも貴重なものと考えられる。

本学に脈々と流れる建学の精神も、それぞれの学部・研究所等の設立に当たって掲げられた理想も、そしてまた来るべき次の一〇〇年に向けて描かれつつある将来構想への胎動も、すべてが本資料編に、たとえそれが分散した形ではあるにせよ含まれている筈である。したがって、問題はこの膨大なデータからいかにして必要な情報を取り出すかにかかわってくるが、これはむしろ読者の裁量に委ねられるべき問題であろう。

本書が単に本学の関係者ならびに大学史の専門家のみならず多くの人々によって広く活用されることを心から希望する次第である。

一九八八年五月

東洋大学創立一〇〇年史編纂委員長

上原 邦雄